

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS SDGs Voice

～あなたの声をみんなの声に～

Topics

-記事-

2020.07.06

古着deワクチン

鈴木 純子

あなたは着なくなった服をどのように処分していますか？
今週は、不要になった衣類を送って、途上国の子どもたちに
ポリオワクチンが送れる取り組み「古着deワクチン」について
ご紹介します。

私も二度ほど利用しているのですが、きっかけは、小学
3年になる娘が小さくなった自分の長靴を寄付したいと
言ったことです。

子どもの靴ってリサイクル先がなかなかなくて、色々検索
している中で古着deワクチンにたどり着きました。



利用される方は、古着deワクチンのサイトから申し込みをして、
3300円（税込み）を支払うと、こちらの回収キッドが届きます。
この強化紙袋は、Tシャツなら100枚、25キロ入るものなので、
衣類、バッグ、靴、帽子、アクセサリなど様々なものを入れて送ることができます。
一気に片づけが進み、すっきりしますよ。
かなり重くなるので、袋詰めは玄関先で行うといいです。
同封されている専用の着払い伝票で、集荷をお願いすればOK。
一回の利用につき、5人分のポリオワクチンが途上国の子どもたちに寄付されます。



ラオスの子供たち。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
SDGs Voice

～あなたの声をみんなの声に～

現地に赴いた、古着 de ワクチンを運営している日本リユースシステム株式会社の今野優子さん。
電話インタビューに応じてくださった方です。

ワクチンを届ける先は標高3000メートルの高地だったり、集落が分散しているために
一人の子どもにワクチンを届けるために看護師さんが5時間から6時間かけて歩いていくなど
現地の方の努力に助けられている面もあります。



新型コロナウイルス感染拡大で、「おうち時間」が増え
感染症の脅威でワクチンの重要性を感じる中、
「古着 de ワクチン」は、利用が例年の2～3倍に増えている
とのこと。
送られた古着は途上国で販売されるので、ここでも雇用が
生まれます。
このコロナ禍でも、今のところ、海外への輸出もちゃんと
行われているとのこと。

気になった方は、ぜひ、[こちら](#)から古着 de ワクチンサイトをご覧ください。

この記事を書いたのは…



鈴木 純子

小学4年生の娘は2回目のヘアドネーションに向けて髪を伸ば
しています。番組ではあなたの気づきにつながる話題をお届け
します。

profile